

平成30年2月23日現在

平成30年度安全な農林水産物安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究委託事業
お問い合わせ等に対する回答

【新たな輸入畜産物の消毒薬剤及び消毒方法の開発】

どのような梱包状態で畜産物が輸入されているのか。また、現在実施しているホルマリンガスくん蒸により、梱包の内部の品質や価値に影響はないのか。

- ・消毒実施件数として最も多い羽毛については、ポリプロピレン製の袋に梱包されており、くん蒸により内部の品質や価値を損なうことはありません。羽毛以外については、フレコンバッグ等に梱包されています。

畜産物がコンテナに密に積載されている場合、梱包が重なり合っている部分への消毒薬の拡散性についてどの程度考慮すべきか。

- ・梱包が重なっている部分へのガスの拡散性を確保することは難しい課題と思われますので、受託先と行政側とで相談しながら研究を進めていきます。

留意事項として、『本研究で開発した輸入畜産物の消毒方法を、国内の家畜衛生分野に応用する手法を提案することも併せて検討してください』とあるが、本研究成果で得られる研究成果を何らかに適用するということか、あるいはこれに係る研究も実施する必要があるのか。

- ・いずれも考えられます。行政側としては、本研究の中で取り組むことを期待していますが、予算額の範囲内で御提案ください。